



2023/3期（第47期）第2四半期 決算説明資料

2022年11月11日
株式会社フォーカスシステムズ
(証券コード：4662)

- 1 2023/3期（第47期）第2四半期決算 P.3
- 2 2023/3期（第47期）業績予想 P.13
- 3 <ご参考> トピックス P.16
- 4 <ご参考> 当社の概要 P.19

1 2023/3期（第47期）第2四半期決算

売上高・各利益ともに、第2四半期累計期間における過去最高を記録

(単位：百万円)

	FY2022				FY2023		前年同四半期比	
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	増減額	増減率
売上高	6,031	12,489	19,255	26,278	6,943	14,238	1,749	14.0%
営業利益	302	821	1,367	1,640	489	1,103	282	34.4%
経常利益	306	770	1,322	1,600	523	1,165	394	51.3%
四半期(当期) 純利益	204	522	889	1,066	354	797	275	52.8%

通期計画に対し、全指標50%を超える進捗

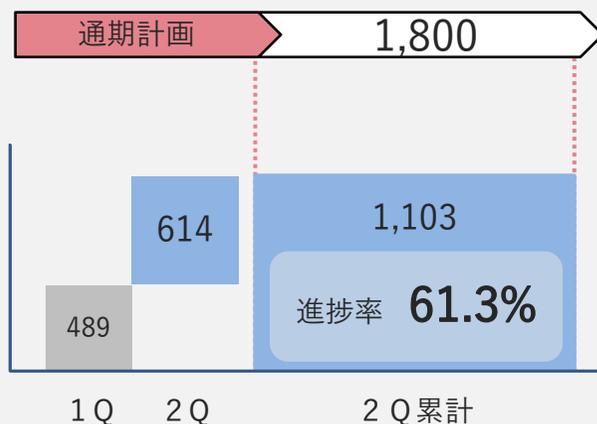
- 第2四半期は既存顧客との取引拡大・新規顧客の開拓が進み、進捗は好調だった。
- 開発フェーズの大型案件が、例年と比較し上期に偏重した。

(単位：百万円)

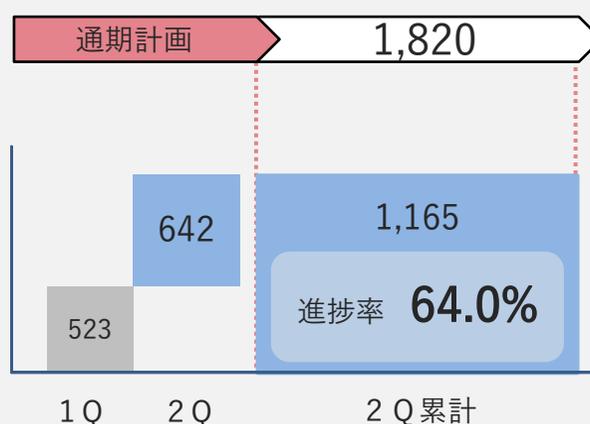
売上高



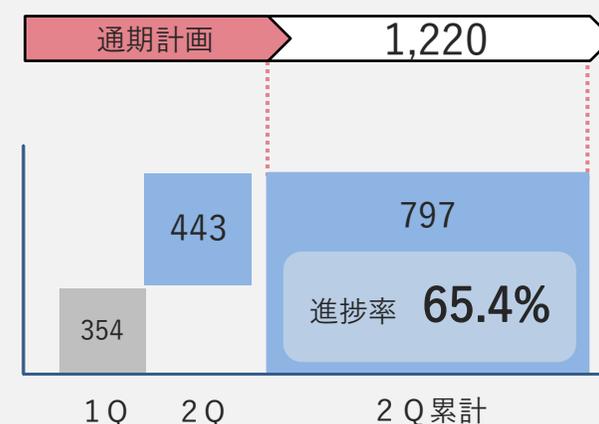
営業利益



経常利益



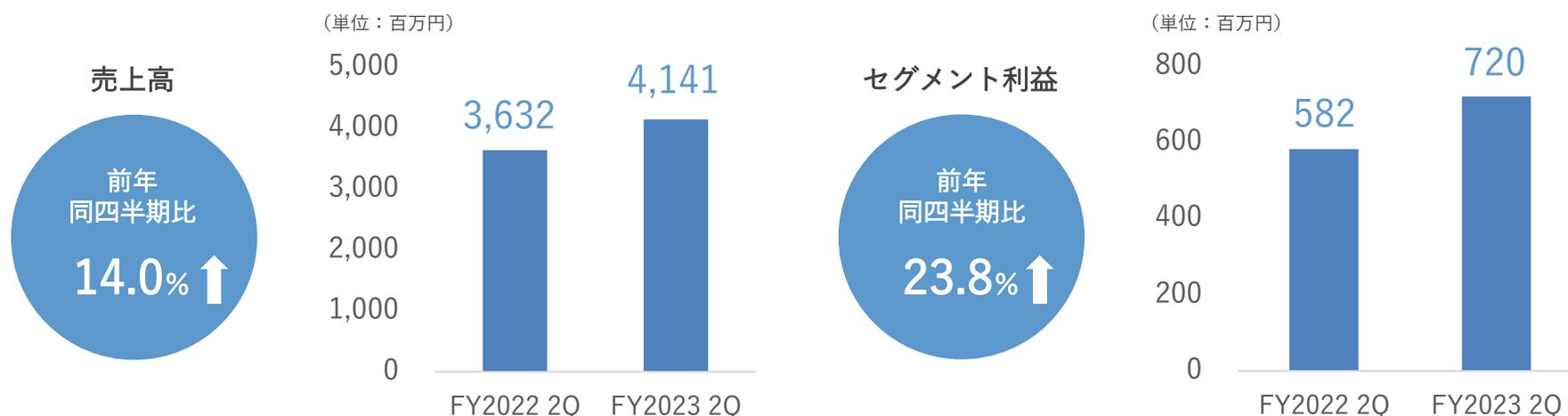
当期純利益



公共関連

主に官公庁及び地方自治体を最終ユーザーとする社会インフラ基盤に係るシステムの設計・製造、システム稼動後の運用・保守

好調な既存案件がセグメント全体をけん引、新規案件も増加し好調に推移

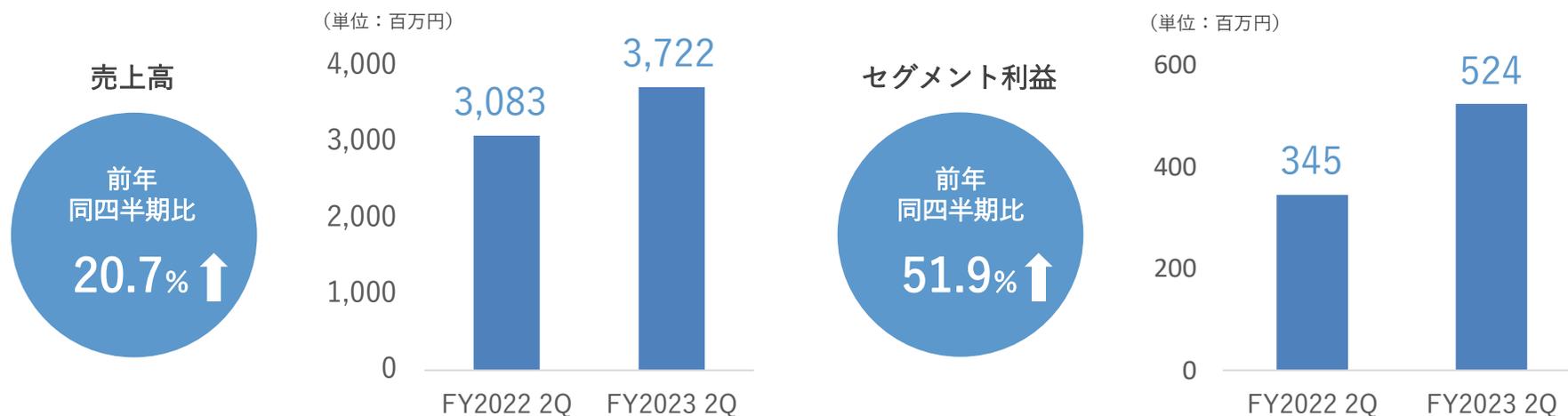


- 前期後半から続く、公共医療案件が売上・利益を大きく押し上げた。
- 大規模な社会保険案件等、安定的な収益基盤の拡大・強化が業績に寄与した。

エンタープライズ

主に法人企業の基幹業務システム・Webシステムの開発、ネットワーク・インフラの設計・構築、RPAソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

intra-martやBiz J、SAP等、ERP事業の一次請け案件を積極的に獲得し、大幅に伸長

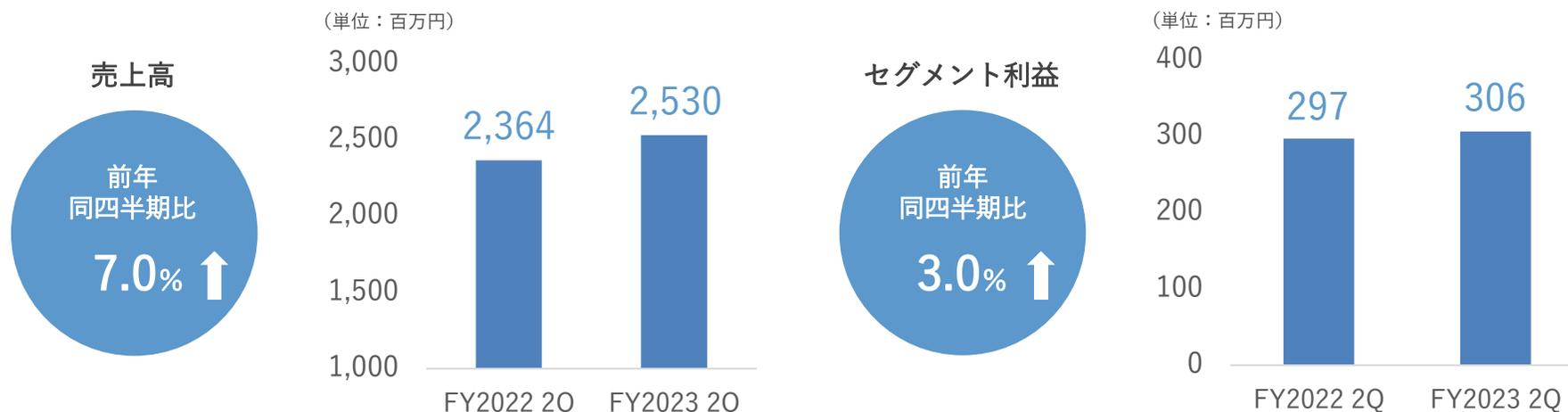


- 民間に留まらず、自治体等の一次請け案件を積極的に獲得した。
- プロジェクトにおける要員管理の最適化・単価アップが奏功し、利益が増加した。

広域ソリューション

主に東京・名古屋・大阪地域における、通信制御システム開発、組込みシステム開発、民間企業・行政機関向けシステム開発、AIソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

戦略的に進めてきたローコード開発案件の獲得で、成長基調を維持

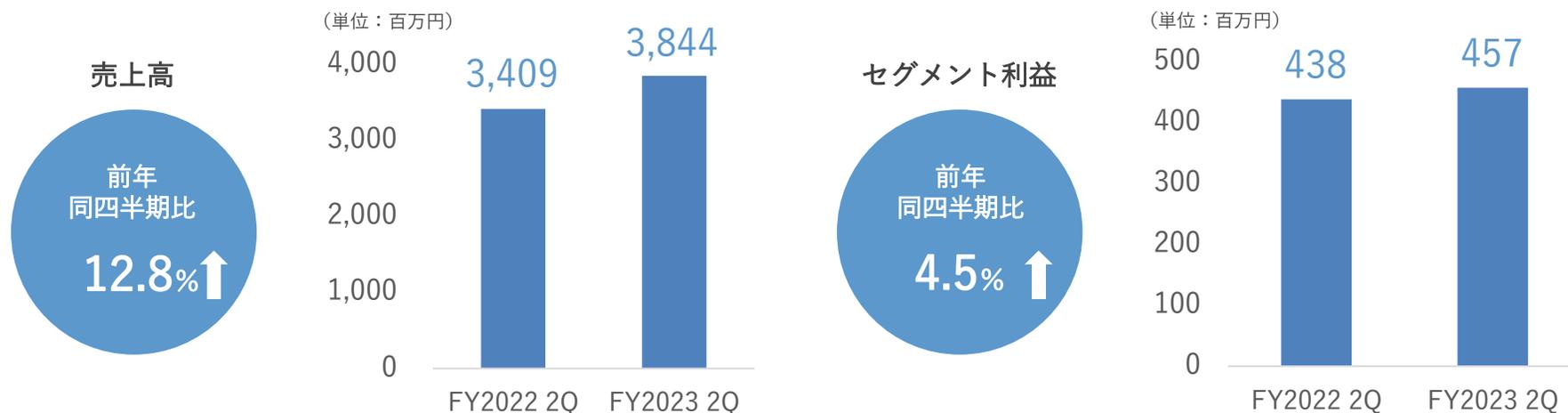


- 大規模案件の進捗遅れによる影響を受け、コストが増加した。
- ローコード開発案件の好調に加え、広範な技術エリアで構築したポートフォリオでカバーした。

イノベーション

主にインフラ基盤設計・構築、メインフレーム構築、システム開発、付随する運用・保守、自社製品の製造、IoTソリューションの提供

システム開発、インフラ設計・構築が共に拡大し、セグメント全体が好調に推移



- 日本IBM(株)と共同で進める公共の大規模開発案件が順調に拡大し、売上に貢献した。
(セキュアな開発環境を構築するコストが増加)
- インフラ設計・構築においても前期に続き堅調に推移した。

(単位：百万円)

	前事業年度	当第2四半期末
(資産の部)		
流動資産	10,869	11,468
固定資産	12,503	8,119
有形固定資産	3,510	3,516
無形固定資産	155	163
投資その他の資産	8,836	4,439
資産合計	23,372	19,587
(負債の部)		
流動負債	5,277	5,559
固定負債	3,330	1,976
負債合計	8,608	7,536
(純資産の部)		
株主資本	9,869	10,349
資本金	2,905	2,905
資本剰余金	2,158	2,167
利益剰余金	5,156	5,622
自己株式	△350	△346
評価・換算差額等	4,894	1,701
純資産合計	14,764	12,051
負債純資産合計	23,372	19,587

前事業年度末と比較し3,785百万円減少

(主な増加理由)

- ・現金及び預金の増加 906百万円
- ・仕掛品の増加 20百万円

(主な減少理由)

- ・売掛金及び契約資産の減少 △301百万円
- ・投資有価証券の減少 △4,601百万円

前事業年度末と比較し1,071百万円減少

(主な増加理由)

- ・短期借入金の増加 320百万円
- ・賞与引当金の増加 216百万円

(主な減少理由)

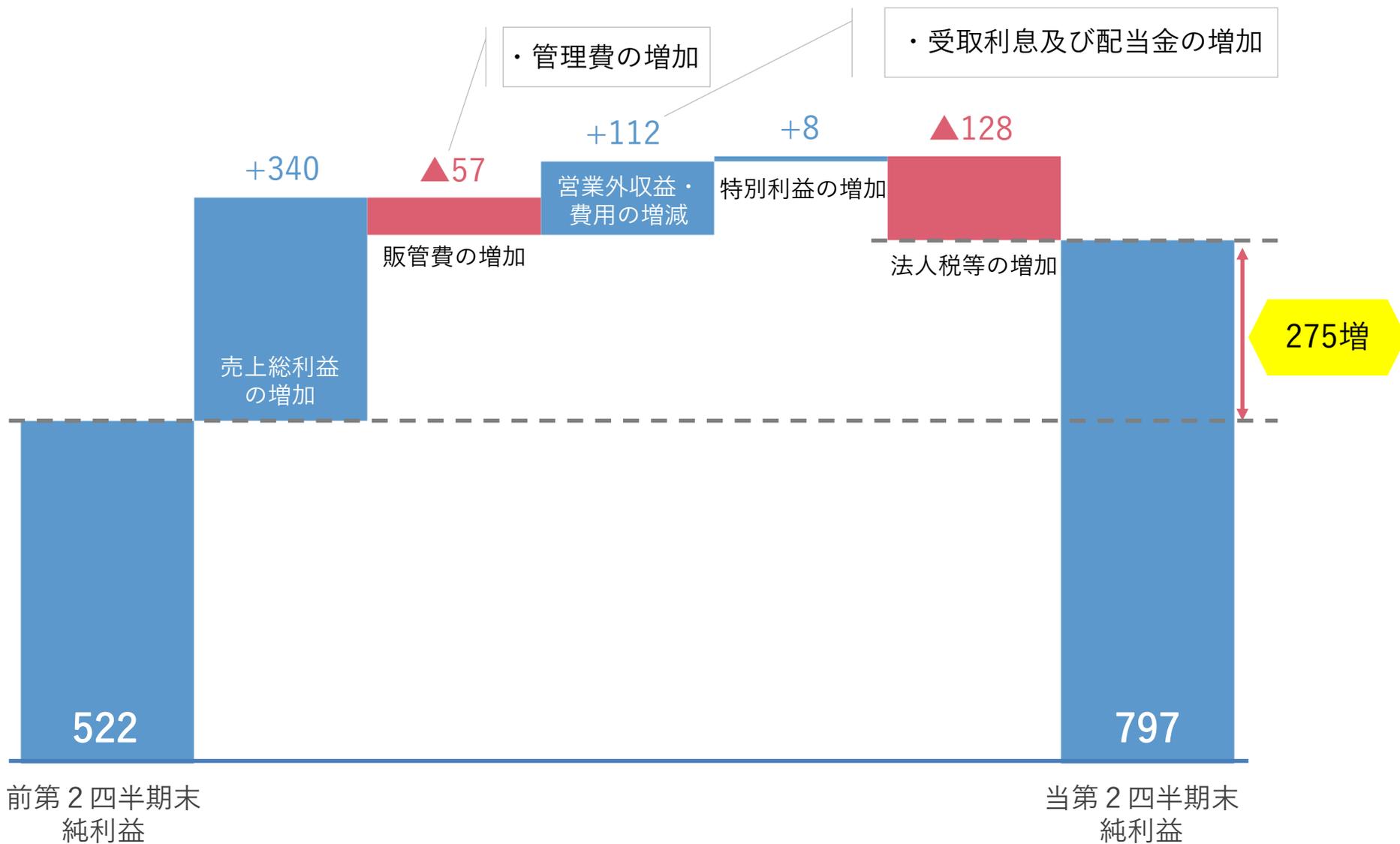
- ・繰延税金負債の減少 △1,408百万円

前事業年度末と比較し3,785百万円減少

(主な減少理由)

- ・その他有価証券評価差額金の減少 △3,193百万円

(単位：百万円)

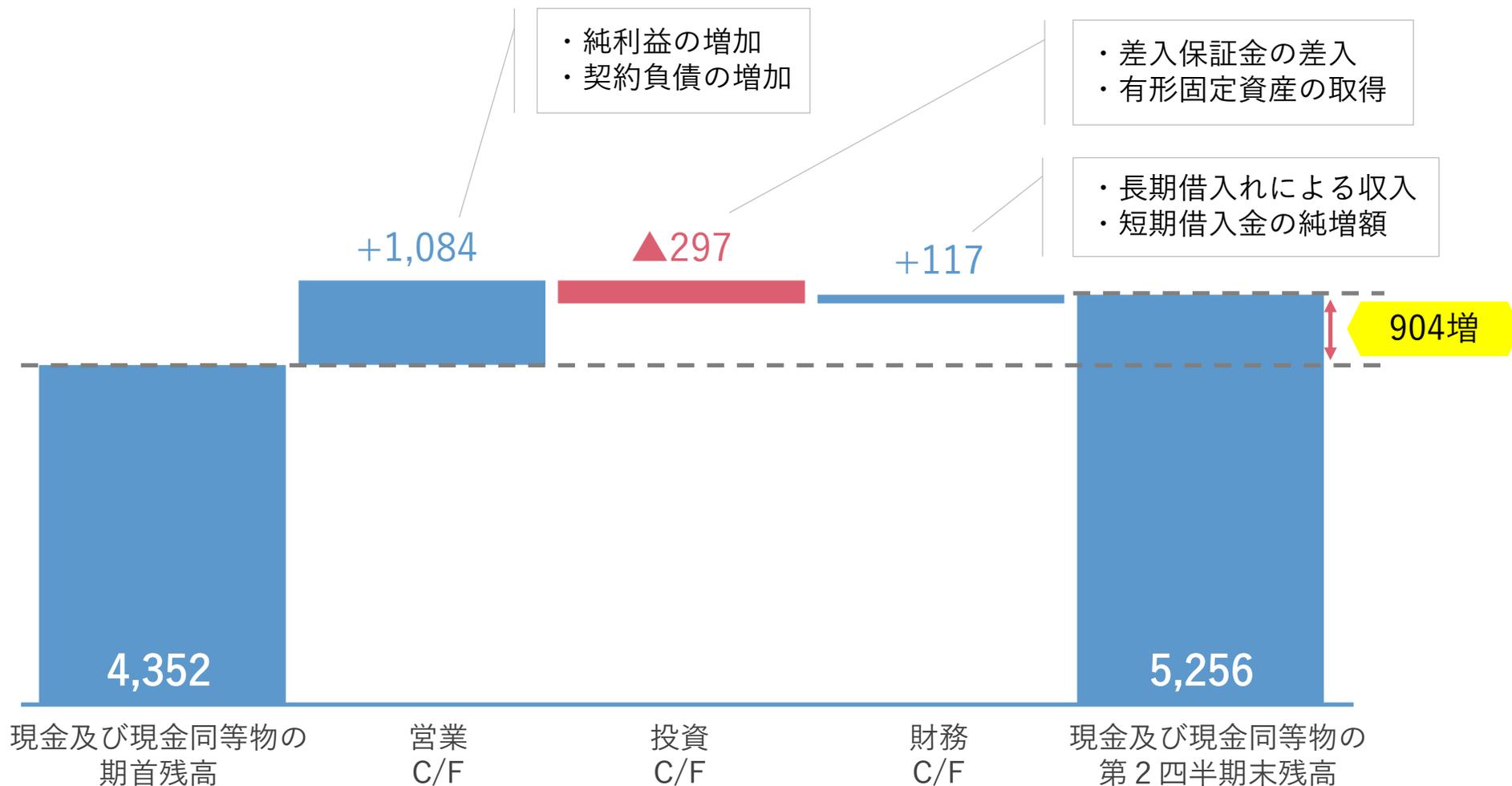


・管理費の増加

・受取利息及び配当金の増加

275増

(単位：百万円)



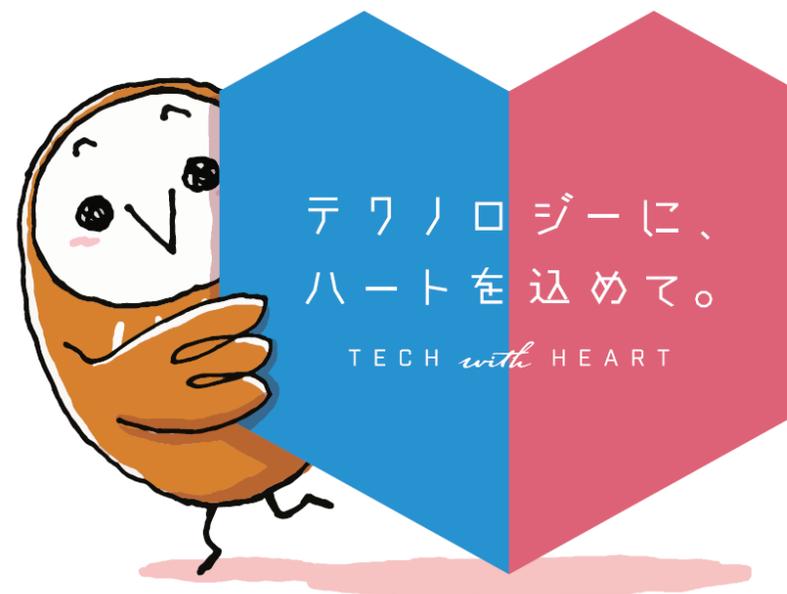
2 2023/3期（第47期）業績予想

- 当期の上期偏重や一部オフィス移転等の予定を鑑み、業績予想は据置き。
- 当期は中間配当を実施し、1株当たりの年間配当金は「30.00円」となる見込み。

	FY2022 実績 (百万円)	FY2023 予想 (百万円)	前期比増減率 (%)
売上高	26,278	27,500	4.6
営業利益	1,640	1,800	9.7
経常利益	1,600	1,820	13.7
当期純利益	1,066	1,220	14.4

	FY2022 実績	FY2023 予想
1株当たり当期純利益 (円)	70.76	80.86
1株当たり配当金 (円)	27.00	30.00
	(内訳) 中間配当 5.00	(内訳) 中間配当 5.00
	普通配当 20.00	期末配当 25.00
	記念配当 2.00	
配当性向 (%)	38.2	37.1

今後とも、ご指導ご支援のほど
よろしくお願い申し上げます。



本資料は、2022年11月11日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2022年11月11日現在における仮定を前提としております。
実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
従って、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

3 <ご参考> トピックス

製品・サービス

株式会社エイト日本技術開発が複数のSAPソリューションを採用
～「RISE with SAP S/4HANA Cloud」のシステム構築はフォーカスシステムズが担当～

製品・サービス

UiPath社と「トレーニング・アソシエイト」契約を締結
～売上高5,000億円未満の企業の市場開拓に向けて～

製品・サービス

自社製品

貿易業界の中小企業向けDX市場を開拓
～フォーカスシステムズとトレードワルツが協業しBeyond TheBookとTradeWaltzを連携～

製品・サービス

プライム案件連続受注が評価されBiz J AWARD 2022『Special Award』を受賞！

製品・サービス

自社製品

滋賀県近未来技術等社会実装推進事業でIoT位置測位技術を活用
～もっとたくさんの“近江牛”、食卓に届け～

製品・サービス

官公庁や教育機関へのプロジェクト実績が評価され
「intra-mart Special Project Award 2022」を受賞！

“未来に向けた取組み”

より広い分野でITを通して携わる取組みについて、当社ウェブサイトで紹介

医療

京都大学大学院医学研究科婦人科学産科学との共同研究

セルフケアによる症状改善を促すフェムテックアプリ

女性特有の病気であるPMS/PMDDの症状を記録することで、
病状評価や症状改善を助けるスマートフォンアプリ

医療

横浜市立大学附属病院放射線部・中央大学国際経営学部との共同研究

CT検査における視線計測

患者の予後や生活の質の改善に向け、効率的な偶発的所見検出を
支援するシステム

農業

滋賀県立大学・滋賀県畜産技術復興センター・株式会社tiwakiとの共同研究

IoTデバイスによる子牛生産の省力化

IoT製品導入で、子牛の病変早期発見を実現し、
畜産業界のDX推進と省力化に貢献

自社製品

4 <ご参考> 当社の概要

事業内容	ソフトウェア開発及びITサービスの提供 セキュリティ製品の開発、販売、サービスの提供
本社	東京都品川区東五反田2-7-8 フォーカス五反田ビル
事業拠点	東京、大阪、名古屋
資本金	29億円
上場市場	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4662）
従業員	1,265名（2022年3月31日現在）

- 1977 ソフトウェア開発を目的として、株式会社フォーカスシステムズを設立
- 1978 沖電気工業(株)と取引を開始し、電子交換機のソフトウェア開発業務開始
- 1988 日本電信電話(株)（現 (株)NTTデータ）と取引を開始し、官公庁向けシステムの受託開発開始
- 1996 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 1997 日本IBM(株)と取引を開始し、システム保守・運用／インフラ技術支援業務の受託開始
- 1999 セキュリティ部門の受託開始（情報セキュリティ事業開始）
- 2004 情報セキュリティでの新分野デジタルフォレンジック製品販売開始
- 2015 東京証券取引所市場第二部へ市場変更
- 2016 東京証券取引所市場第一部銘柄へ指定替え
- 2022 東京証券取引所プライム市場へ移行

社会と暮らしを支えるフォーカスシステムズ



01 公共関連

社会インフラ基盤など

02 エンタープライズ

基幹業務システム (ERP)
クラウド、WEBアプリなど

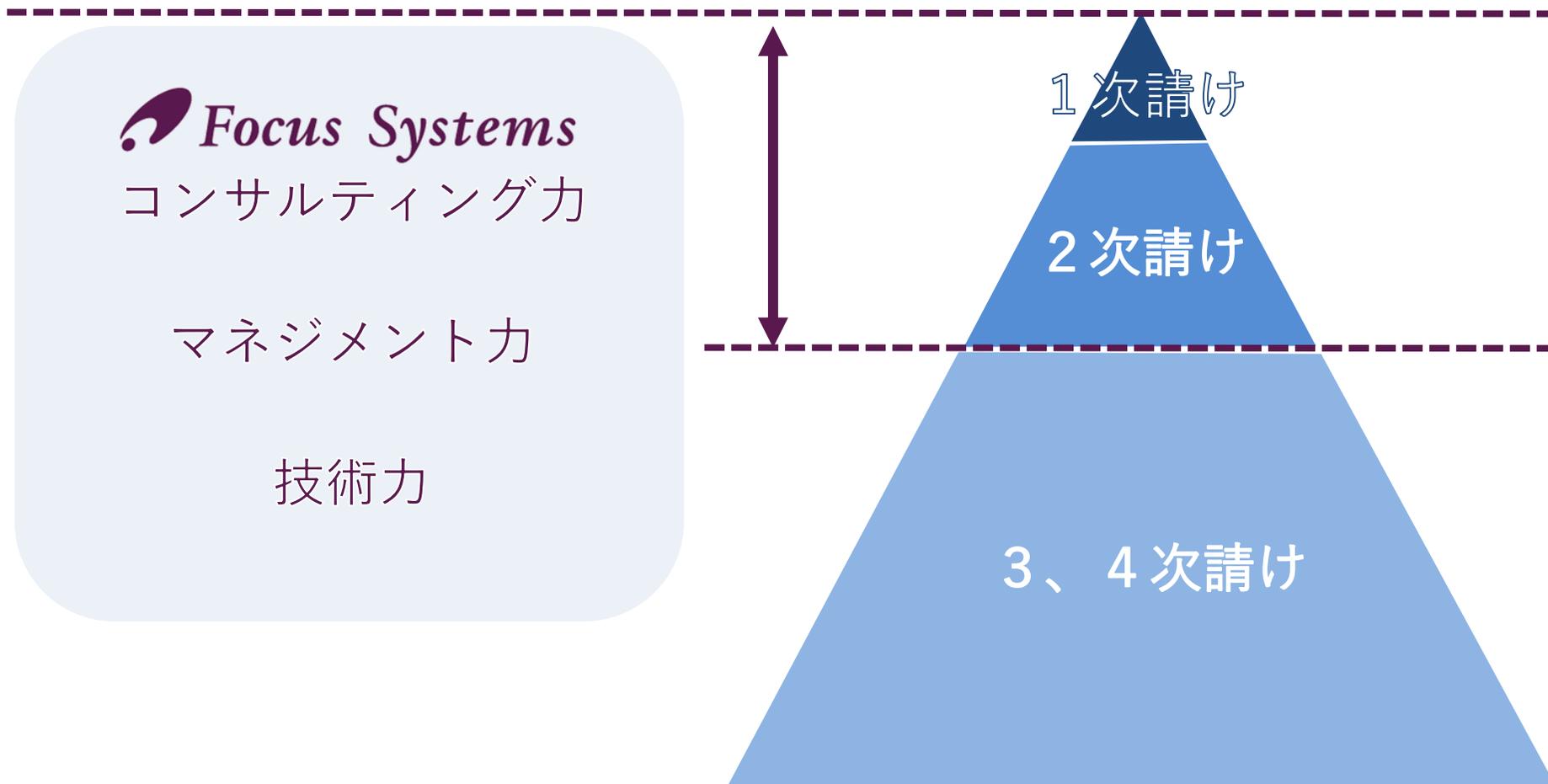
03 広域ソリューション

通信制御、組込み、
AIソリューションなど

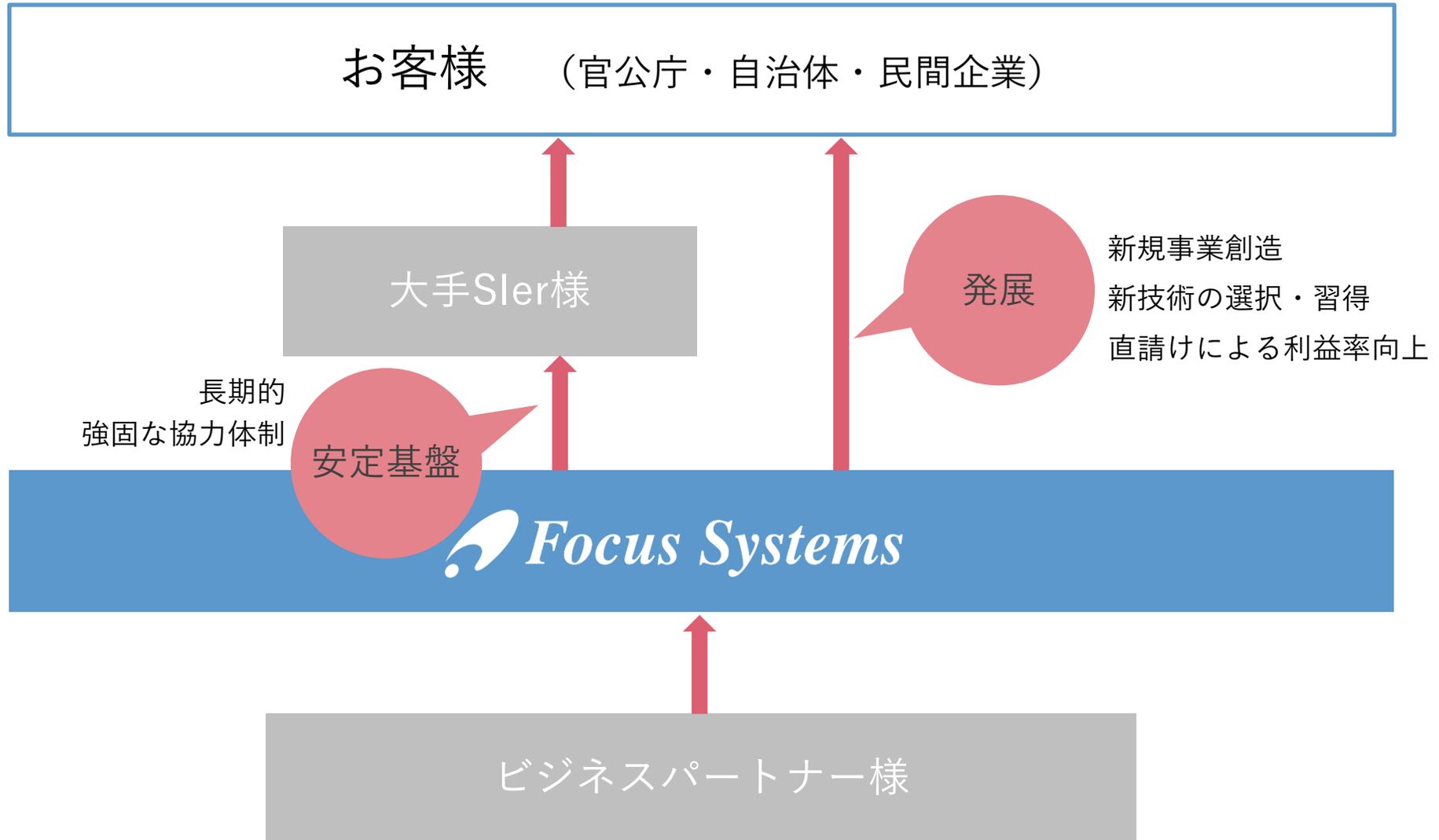
04 イノベーション

インフラ基盤
IoT、情報セキュリティなど

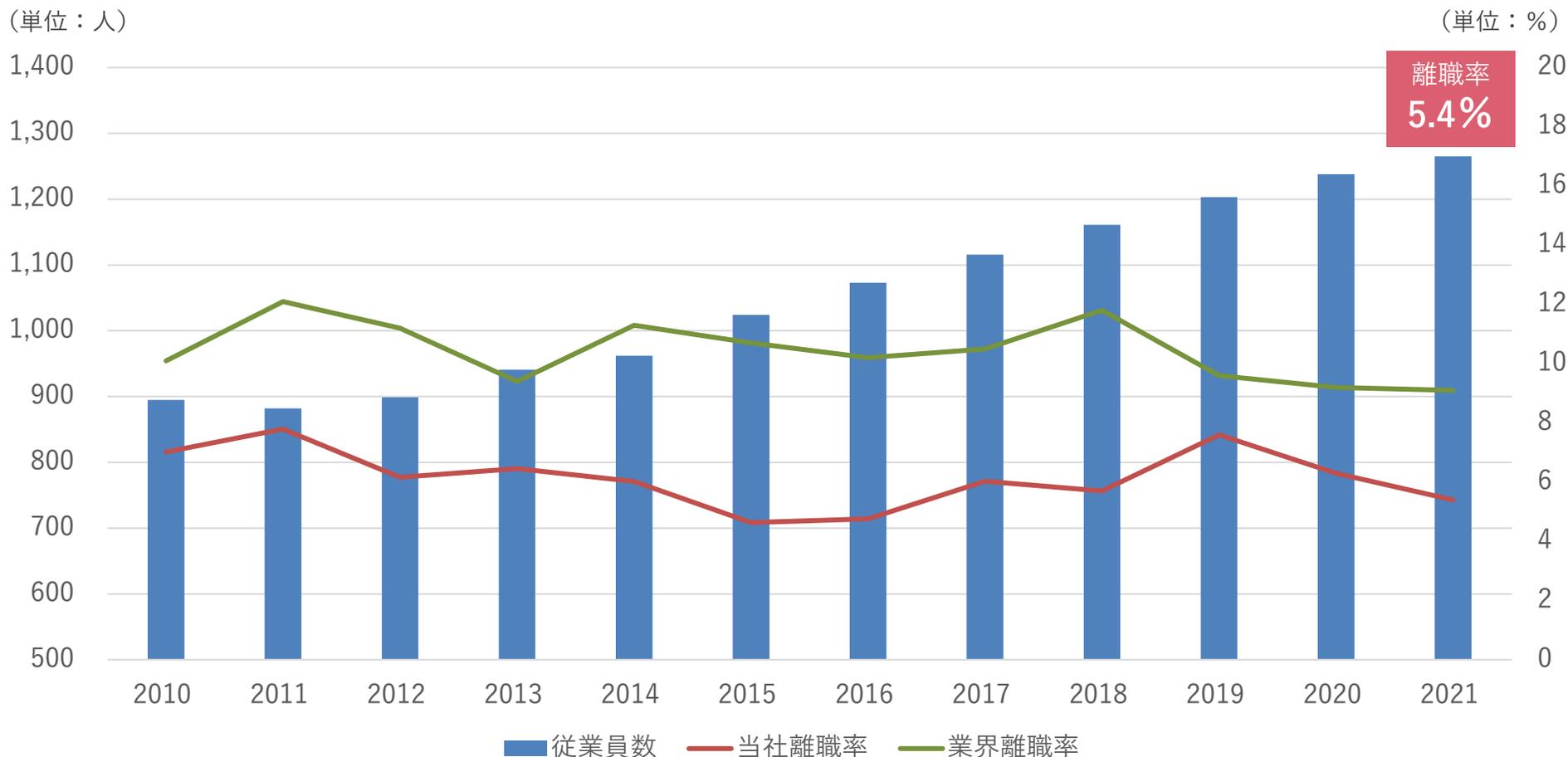
- 当社は、独立系のシステムインテグレーター（SI）
- 上流で求められるコンサルティング力から、下流で求められる技術力まで保有



	独立系	ユーザー系	メーカー系
概要	経営・資本の独立性	情報システム子会社 商社/金融の元システム部	コンピュータ会社 ハードウェア会社
長所	幅広く自由な事業分野 培ったものは自社資産	親会社のノウハウ活用 事業基盤が安定	親会社のハード活用 ソリューション提案 事業基盤が安定
短所	すべて自力の経営 顧客&BPの開拓 知的財産の蓄積 経営基盤&財務の強化	専門分野が限定的 事業領域が狭い	親会社の縛り



- 新卒・中途共に求職者に向けた情報開示を充実させる等、当社の魅力認知策を強化
- 入社後のミスマッチを減らしたことにより、離職率は順調に低下



※業界離職率は「雇用動向調査結果の概要」(厚生労働省)より抜粋

※当社離職率は年度、業界離職率は年を基準としている。



経済産業省および日本健康会議が共同で優良な健康経営を実践している法人を認定する「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に選定されました。

1 部活動支援

…社員の健康を促進するため、部活動への活動支援を実施。
現在、9つの部活に約150名が所属。



2 健康管理セミナー

…心身を健康に保つための食生活改善と肩こり腰痛予防セミナーやマインドfulness研修・ヨガ&癒しセミナーなどテーマ別のセミナーを実施。

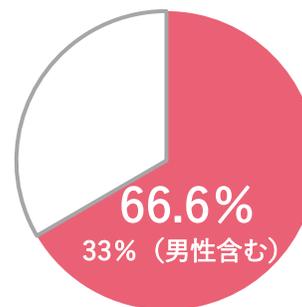
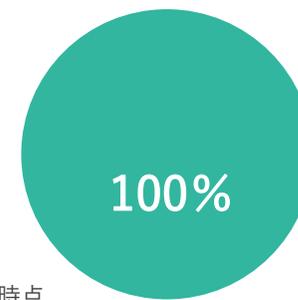


「たばこ健康被害」への理解促進や「メンタルヘルス」対策等も実施

✂️ ワークライフバランス

1 短日・短時間勤務制度

…仕事と育児・介護の両立を支援する制度。
短日（週3日）、短時間（1日5または6時間）が選択可能。
※育児は小学校3年生まで、介護は介護事由がなくなるまで可。
※同制度上で、フレックス制度も適用可。

くるみん（次世代育成支援）
認定育児休業あけ短日・短時間
勤務制度利用率育児休業取得した社員の
復職率

※2022年3月末時点

2 ジョブリターン制度（再雇用制度）

…ライフイベント（結婚・出産・育児）や
キャリアアップ（留学・転職）を目的として退職した場合、
10年以内であれば再雇用OK。

3 フレックス制度

…自分のライフスタイルに合わせた働き方を支援する制度。

ダイバーシティ

1 職域創成

- ・・・障がい者雇用の新たな職域創成を目指し、水耕栽培による野菜の生産業務を2015年に開始。現在は、千葉県と茨城県に農園を設立し、農業に従事したい障がい者の方の就労を実現しています。



2 女性社員交流会

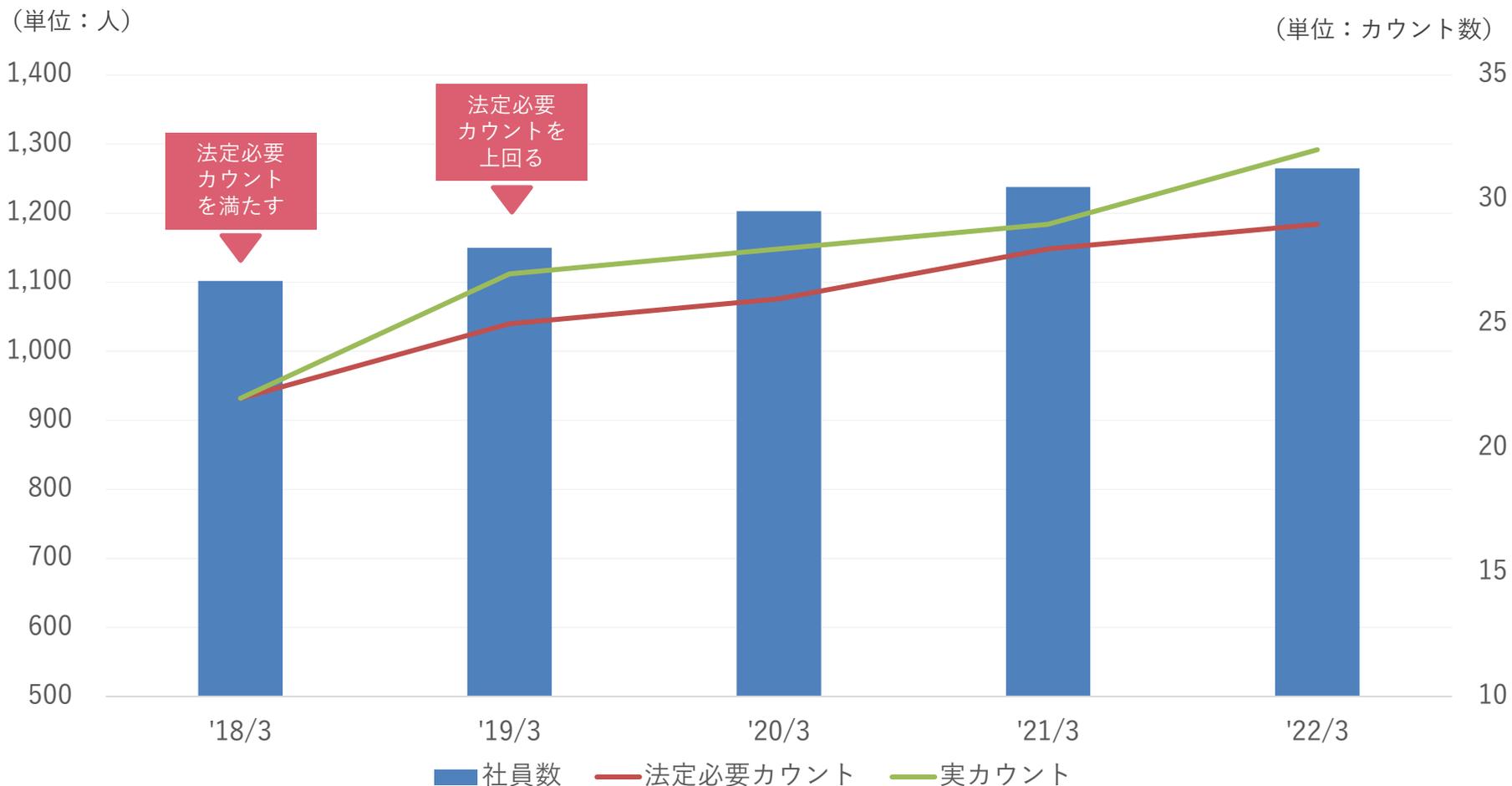
- ・・・若年層の女性を対象に、働き方などを伝え、キャリアプラン形成のサポートを実施。



えるぼし（女性活躍推進）

女性活躍推進法に基づく優良企業として「えるぼし認定」取得。

- 農業及び事務の職域開拓を図り、多くの障がい者が長く働ける環境を整備。
- 障がい者と働くことへの理解を促進する社内研修を実施し、受入れ体制を強化。



マスコットキャラクター 「ふくえさん」

フォーカスシステムズや情報システムの世界を
身近に感じて頂くよう
ビジネスのこと、従業員のこと、未来のこと・・・
ふくえさんを通してさまざまな情報を発信しています。

